

◆【海員随想】「戦没した船と海員の資料館」を参観して① 井田七郎

2000年8月22日、全日本海員組合関西地方支部2階の「戦没した船と海員の資料館」を参観した。「海に墓標を一海員不戦の誓い」と大きく書かれた額がある入口。その下の右側に戦没船を記録する会会長、左側に全日本海員組合長・中西昭士郎氏の献辞が書かれてあった。

戦没船2741隻の銘板（うち1197隻はアルフォト写真）、戦没船カード2834件、戦没船員名簿6万331人、図書・文献など662冊、資料（手記、私文書、証書、戦記など）213点と盛りだくさんの資料が展示されていた。

実は、私にはどうしても写真と情報を入手したい船が9隻あった。資料館では7隻の写真と9隻の情報について知る事ができた。情報は係員がコピーを手配してくれた。この写真とコピーは別途整理したいと思っている。

戦中・戦後を船で過ごし、こよなく海と船を愛した者としては、若かりし頃に見た船、聞いた船、関係の深い船が数多く展示されており感無量であった。

私の場合①

昭和12（1937）年7月5日、大阪商船の「泰山丸」に15歳で水夫見習として乗船したのが船員のはじまりである。

乗船2日後の7月7日に日中戦争がはじまり、船は御用船（公用船）となり、中国・青島からの引揚邦人の輸送に従事した。しかし、数カ月で病気下船し退職した。

翌、昭和13年4月に、博多湾鉄道汽船の近海船「第3博鉄丸」に乗船し、メス、サロンボーイから水夫、操舵手となり、昭和15年2月に下船した。

昭和15年8月、宮地汽船の「仁山丸(5215トン)」に二等水夫として乗船し、ボンベイ航路に就航。一等水夫、操舵手になった。そのころ私の兄は、甲南汽船の「神速丸」に操舵手として乗船していた。

昭和16年12月8日、太平洋戦争がぼっ発した。「仁山丸」は開戦と同時に陸軍の御用船となり、開戦2週間後の12月22日にはフィリピン・リンガエン湾のサンフェルナンド敵前上陸作戦に従事した。この作戦で、東洋汽船の「巴洋丸」が船尾を真下にして沈没するのを目の前にしながら、上陸用舟艇を降ろすウインチ操作をしていた。このことが、脳裏に焼き付いている。

この作戦で失われた輸送船1隻、乗組員がどうなったかが気になる船である。

昭和17年3月1日にはサンフェルナンドに続き、ジャワ島のクラガン敵前上陸作戦に従事した。この作戦では日本郵船の「徳島丸」が、空爆により任意搁座（かくざ）して沈没はまぬがれたが、乗組員がどうなったかが気になる船である。

「仁山丸」はその後も、海と空からの攻撃にさらされるも、たくましく生き延びていたが、私は昭和18年3月に、陸軍に入営するため「仁山丸」を下船した。

「海員だより」